

二〇二六年四月一八日(参加者一七名)

ひと雨に微笑みあらた春の山	澄子
ヒ首のごと風切りゆける燕かな	あきこ
犬も背に小さきリュックや春の山	むべ
燕来て田んぼに活気戻りけり	よし女
夕風の湾を掠める燕かな	花茗荷
幾つもの休み田抱へ山笑ふ	よし女
クレーンとニアミス燕大事なし	あきこ
俯瞰して高舞ふ鳶や春の山	わかば
顔ぜんぶ口かと思ふ燕の子	康子
昏れなづむ空を自在に夕燕	勉聖
燕に納屋の引き戸を細く開け	よし女

若鮎句会・みのもる選・二〇二六年四月二六日